

地方公共団体における次期情報セキュリティクラウドの 検討に係るワーキンググループ（第2回）

日 時: 令和2年6月26日(金) 13:00~15:00

会議形式: オンライン会議

議 事:

1. 次期自治体情報セキュリティクラウドについて
2. 自治体へのヒアリング

【議事概要】

1. 次期自治体情報セキュリティクラウドについて

○リバースプロキシは、グローバルIPが直接見えないという点でセキュリティ上有効であるため、オプションとして機能要件に追加してはどうか。

○通信の復号対応は、ブラックリスト方式では、余程有名なC&Cサーバーでないと検知できない上に、復号したとしてもC&Cサーバーであることが分かる検知ロジックが難しい。また、中間証明書を入れることによって、ブラウザ側では正規のSSL証明書かどうか確認できなくなるという弊害があるので、通信の復号対応は必須ではなく、オプションの機能としてよいのではないか。

○セキュリティクラウドの必須要件とする機能でも、自治体単独で導入する場合もあり得るのではないか。また、単独導入する場合でも、セキュリティクラウド側で導入する場合と同様の要件を満たす必要があることを示すべきではないか。

○調達にあたっては、原則都道府県単位で行うことが望ましいが、必ずしも圏域でまとめる必要はなく、場合によっては、大きな市でまとめることや、民間のサービスを利用することを認めてはどうか。

2. 自治体へのヒアリング

一部の自治体から、次期自治体情報セキュリティクラウドへの意見・要望及び現行のセキュリティクラウドにおける取り組みや工夫している点を聴取

○無害化、特定通信、EDR等について、定義をしっかりと示す必要があるのではないか。

○組織内でセキュリティ人材を育成することが難しい自治体もあると思われるので、SOCの機能には期待している。